

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 1 年 5 月 調査結果 —

(平成 1 1 年 6 月 1 日)

○調査期間：平成 1 1 年 5 月 1 9 日～2 5 日

○調査対象：全国の 3 8 9 商工会議所が 2 6 2 8 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 5 製造業 6 4 4 卸売業 2 3 9
小売業 7 5 6 サービス業 6 0 4

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業部 調査課 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6、7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成11年5月調査結果のポイント】

マイナス水準は横ばいで推移

- 5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は前月水準（▲45.9）とほぼ同水準の▲46.0となった。業種別にみると、建設業で4.2ポイント、製造業で0.8ポイント、サービス業で4.1ポイント前月水準に比べマイナス幅が縮小したものの、卸売業で6.1ポイント、小売業で4.2ポイント前月水準に比べマイナス幅が拡大したことからマイナス水準は横ばいで推移している。全産業合計の業況DIは昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、8ヶ月連続したマイナス幅の縮小は一服した状況となっている。マイナス水準での推移は平成3年4月以来98ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来93ヶ月連続となっている。

建設業では、「公共工事の早期発注が若干出てきた」との声が一部寄せられているが、公共工事の早期発注を求める声が引き続き多い。民間需要の低迷が引き続き指摘されているほか、「マンション関連が好調なるも中小には影響薄い」「住宅のリフォームも競争が激しく採算は厳しい」などの声も寄せられている。製造業では、電子部品関連、住宅関連の一部より「ここにきて対前年比受注増となった」との声や、「組合全体としては厳しいが、中には好転しているところもある」など業況の上向き傾向を指摘する声があるものの、受注の減少や業況の低迷を指摘する声は引き続き多く寄せられている。また、「業況に下げ止まり感はあるものの、上昇気配に転ずる兆候が見えない」といった不透明感を指摘する声も寄せられている。卸売業では、「経済対策の波及効果により需要増が見込まれることから、先行きの期待感が見受けられる」ものの、「需要そのものについては低迷が続き、大幅売上増には時間がかかる」「流通経路の多様化により依然厳しい状況が続く」との見方も寄せられている。小売業では、「連休中は昨今の『安近短』の外出傾向もあり買い物客は多かった」ものの、「客単価の下落から売上増には結びつかなかった」など消費の低迷が指摘されたほか、「目玉商品のまとめ買いの増加」や「必要なものを必要なだけしか買わない」など購買意欲の弱さを指摘する声が多い。また、先行きについて「夏のボーナス減少が予想されることから中元商戦への影響を懸念」する声が寄せられている。サービス業では、「連休中はかなり好況だったがその後はバツタリ」などゴールデンウィーク後の低迷を指摘する声が旅館、飲食店を中心に多く寄せられた。輸送からは「荷動きが鈍いため輸送力に過剰感があり、それに加えて運賃引き下げの要請もあり厳しい状況が続く」との声も寄せられた。

売上面では、製造業、サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、建設業、卸売業、小売業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が1.6ポイント拡大して▲41.8となった。採算面では、卸売業、小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、建設業、製造業、サービス業でマイナス幅が縮小したことから全産業合計の採算DIは前月水準よりマイナス幅が2.1ポイント縮小して▲42.5となった。

- 向こう3ヶ月（6～8月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲34.0と現状より好転するとの見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては新年度公共工事の早期発注に対する期待が多く寄せられている。

【業況についての判断】

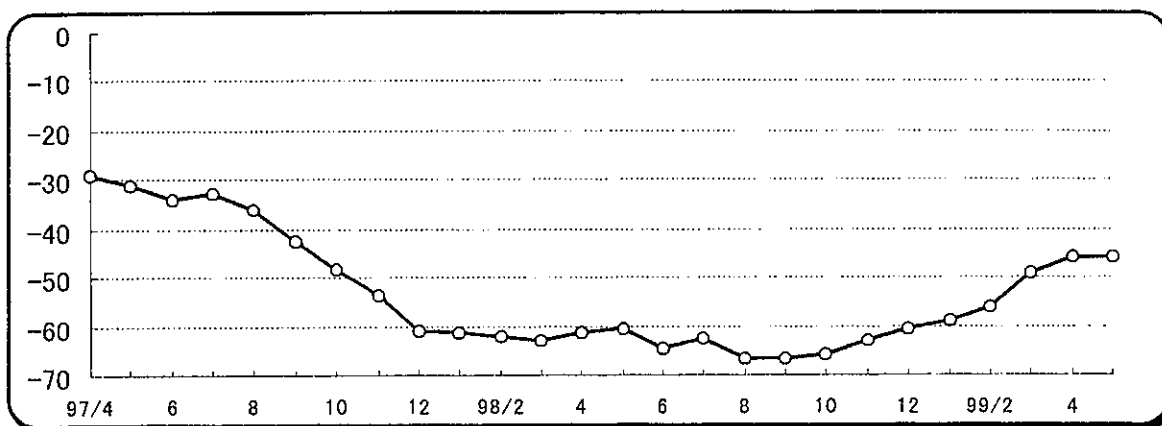
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は前月水準（▲45.9）とほぼ同水準の▲46.0となった。業種別にみると、建設業で4.2ポイント、製造業で0.8ポイント、サービス業で4.1ポイント前月水準に比べマイナス幅が縮小したものの、卸売業で6.1ポイント、小売業で4.2ポイント前月水準に比べマイナス幅が拡大したことからマイナス水準は横ばいで推移している。全産業合計の業況DIは昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、8ヶ月連続したマイナス幅の縮小は一服した状況となっている。マイナス水準での推移は平成3年4月以来98ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来93ヶ月連続となっている。
- 向こう3ヶ月（6～8月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲34.0と現状より好転するとの見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	10年 12月	11年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲60.4	▲58.9	▲56.2	▲49.2	▲45.9	▲46.0	▲34.0 (▲49.1)
建設	▲57.4	▲58.6	▲53.1	▲41.1	▲45.4	▲41.2	▲32.3 (▲51.9)
製造	▲64.4	▲62.9	▲61.7	▲52.5	▲50.5	▲49.7	▲31.8 (▲49.7)
卸売	▲52.1	▲51.4	▲44.5	▲40.9	▲35.6	▲41.7	▲28.0 (▲51.6)
小売	▲60.0	▲60.6	▲57.9	▲52.6	▲46.8	▲51.0	▲39.9 (▲46.2)
サービス	▲61.8	▲55.6	▲54.8	▲49.8	▲44.3	▲40.2	▲32.3 (▲49.0)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヶ月の先行き見通しDI
 ()内は昨年5月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



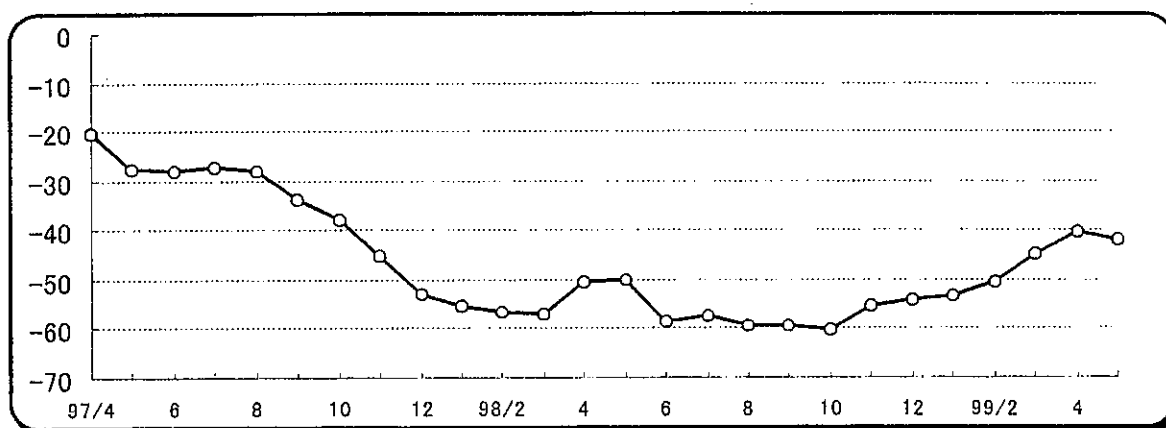
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、製造業、サービス業で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、建設業、卸売業、小売業でマイナス幅が拡大したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が1.6ポイント拡大して▲41.8となった。
- 向こう3ヶ月（6～8月）の先行き見通しは全産業合計で▲26.6と現状より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	10年 12月	11年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 54.1	▲ 53.2	▲ 50.4	▲ 44.8	▲ 40.2	▲ 41.8	▲ 26.6 (▲ 41.7)
建設	▲ 50.5	▲ 50.5	▲ 45.7	▲ 27.9	▲ 36.5	▲ 40.6	▲ 21.3 (▲ 42.1)
製造	▲ 63.6	▲ 59.8	▲ 57.7	▲ 51.9	▲ 48.8	▲ 43.8	▲ 26.2 (▲ 47.7)
卸売	▲ 38.8	▲ 42.1	▲ 36.4	▲ 32.4	▲ 27.1	▲ 31.3	▲ 17.6 (▲ 31.4)
小売	▲ 48.8	▲ 54.3	▲ 51.2	▲ 52.1	▲ 37.3	▲ 45.5	▲ 33.3 (▲ 38.8)
サービス	▲ 58.5	▲ 50.8	▲ 49.8	▲ 43.7	▲ 42.1	▲ 39.8	▲ 25.8 (▲ 42.8)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



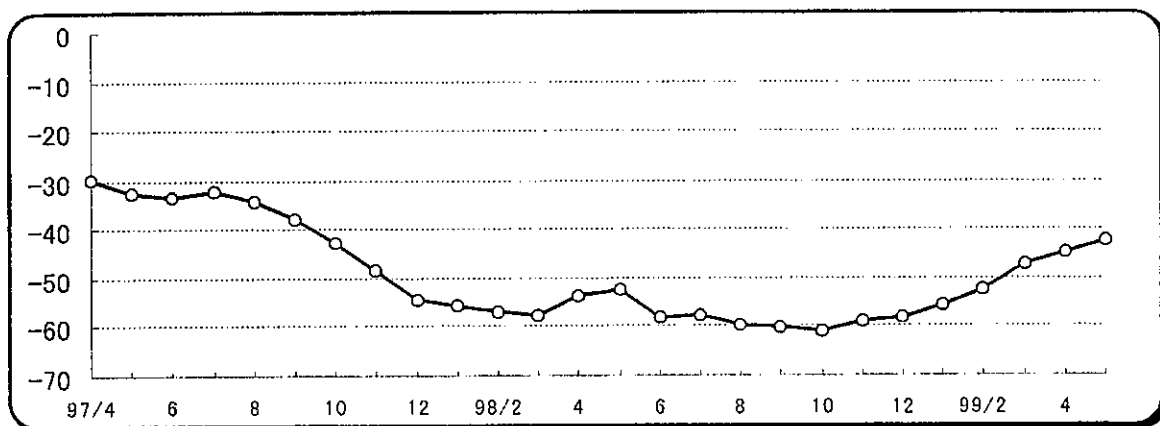
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、卸売業、小売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、建設業、製造業、サービス業でマイナス幅が縮小したことから全産業合計の採算DIは前月水準よりマイナス幅が2.1ポイント縮小して▲42.5となった。
- 向こう3ヶ月（6～8月）の先行き見通しは全産業合計で▲31.5と現状より好転するとの見方となっている。

採算DI（前年同月比）の推移

	10年 12月	11年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 58.2	▲ 55.9	▲ 52.7	▲ 47.1	▲ 44.6	▲ 42.5	▲ 31.5 (▲ 44.3)
建設	▲ 58.5	▲ 60.4	▲ 55.8	▲ 42.8	▲ 44.4	▲ 41.9	▲ 32.0 (▲ 50.9)
製造	▲ 65.7	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 53.7	▲ 55.1	▲ 47.3	▲ 32.5 (▲ 48.3)
卸売	▲ 46.5	▲ 44.3	▲ 35.3	▲ 36.4	▲ 32.4	▲ 36.0	▲ 24.6 (▲ 38.7)
小売	▲ 55.9	▲ 55.6	▲ 52.1	▲ 49.9	▲ 40.9	▲ 44.5	▲ 34.3 (▲ 40.1)
サービス	▲ 57.2	▲ 53.7	▲ 50.0	▲ 43.2	▲ 43.0	▲ 37.3	▲ 29.2 (▲ 43.3)

《採算DI（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	10年 12月	11年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	▲ 5.6	▲ 2.7	1.2	0.8	0.5	▲ 0.7	▲ 2.6 (▲ 4.4)
建設	2.4	2.0	6.5	3.1	3.7	2.8	▲ 1.8 (▲ 6.0)
製造	▲ 6.8	▲ 4.8	▲ 3.3	▲ 0.4	▲ 3.5	▲ 3.4	▲ 6.4 (▲ 10.6)
卸売	▲ 7.6	2.7	4.6	9.1	7.9	2.8	3.4 (0.5)
小売	▲ 1.3	0.7	4.4	▲ 0.2	2.7	1.1	1.1 (0.4)
サービス	▲ 14.8	▲ 10.7	▲ 2.9	▲ 1.7	▲ 3.0	▲ 3.9	▲ 6.4 (▲ 4.7)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】製造業以外の全業種で上昇超感強まる。

【先行き見通しD I】建設業、製造業、サービス業で上昇超の見通し。

従業員D I (前年同月比) の推移

	10年 12月	11年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	▲ 18.2	▲ 16.9	▲ 16.6	▲ 17.3	▲ 15.8	▲ 17.8	▲ 13.4 (▲ 11.7)
建設	▲ 24.9	▲ 25.6	▲ 24.0	▲ 26.1	▲ 23.2	▲ 25.3	▲ 22.8 (▲ 22.5)
製造	▲ 27.8	▲ 25.2	▲ 26.1	▲ 25.6	▲ 25.8	▲ 27.0	▲ 19.5 (▲ 18.5)
卸売	▲ 15.9	▲ 18.0	▲ 11.6	▲ 15.3	▲ 13.0	▲ 14.2	▲ 9.5 (▲ 8.4)
小売	▲ 12.8	▲ 8.8	▲ 10.0	▲ 9.5	▲ 7.4	▲ 11.2	▲ 9.0 (▲ 4.9)
サービス	▲ 10.2	▲ 11.3	▲ 11.1	▲ 12.4	▲ 11.2	▲ 12.6	▲ 9.0 (▲ 6.6)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】全業種で過剰超感強まる。

【先行き見通しD I】全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成11年5月の景気キーワード】

○先行き期待

「金額ベースで前年を上回った。また、向こう3ヶ月も好転が期待され明るい兆しが見えてきた」（佐世保・建設）、「企業間格差はあるものの明るい兆しが見え始めている」（静岡・家具製造、境港・食品卸）など、若干ではあるが回復の兆しが見られるとの声（町田・建設、弘前、焼津・卸売、堺、熊本・大型店他）のほか、「今年は国の経済対策の波及効果により需要増が見込まれているため各企業とも売上高の向上が期待されている」（秋田・建材卸）や、「モーター関連に動きがでてきた。この調子が続きそうな気配があり秋には回復することを期待」（青梅・電子部品製造）、「夏場の飲料部門の売上に期待」（相模原、各務原・飲食）など先行きの期待感が寄せられている（名古屋・管工事、弘前・電子部品製造、相生・船舶修理他）。しかしながら、「底入れの兆しは伺えるものの、上昇基調に点じた気配は感じられない」（豊橋・自動車部品製造）など、回復へのはっきりとした動きが見えない点を指摘する声（川崎・建設、秋田、食品製造、酒田・木材製造、今治・織物製造、岡山・衣料卸他）や先行きの不透明感を指摘する声も一方で多く寄せられている。

○消費の低迷

個人消費の低迷を指摘する声が卸売業、小売業を中心に引き続き多く寄せられている。「個人消費は先行きに対する不安感が根強く」（長岡・繊維卸）、「全体的に消費不振が続いている」（一宮・大型店）との声のほか、「個人消費の低迷はまったく下げ止まらず、従業員の過剰が原因となって採算も悪化している」（館山・大型店）という声も寄せられている。また、「ゴールデンウィーク中は、昨今の『安近短』の外出傾向もあり買い物客は多かったが、購買意欲は鈍い」（静岡、京都・大型店等）や「客単価の下落」等を指摘する声も多い。先行きについては「ボーナス時期なので今よりは好転する」（相模原・大型店）との見方の反面、「各企業リストラ推進の中、ボーナス等の減額も見えており、可処分所得の減少で一層生活防衛型となっており、中元商戦の行方は不透明」（千葉、八尾、鹿児島・大型店）との見方も寄せられている。地域振興券について「交付直後は利用も多かったが、最近では利用もわずか」（金沢・大型店他）となっており、「振興券効果は落ち着いてきており、逆にその反動による今後の消費落ち込みを懸念」（銚子・大型店、八幡浜・商店街）する声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
11年3月	先行き期待	需要の低迷	地域振興券
4月	先行き期待	需要の低迷	地域振興券
5月	先行き期待	消費の低迷	

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・採算D Iは前月水準に比べてマイナス幅が縮小したものの、売上D Iはマイナス幅が拡大している。「公共工事の早期発注が若干出てきた」との声が一部寄せられているが、公共工事の早期発注を求める声が引き続き多い。民間需要の低迷が引き続き指摘されているほか、「マンション関連が好調なるも中小には影響薄い」「住宅のリフォームも競争が激しく採算は厳しい」などの声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。電子部品関連、住宅関連の一部より「ここにきて対前年比受注増となった」との声や、「組合全体としては厳しいが、中には好転しているところもある」など業況の上向き傾向を指摘する声があるものの、受注の減少や業況の低迷を指摘する声は引き続き多く寄せられている。また、「業況に下げ止まり感はあるものの、上昇気配に転ずる兆候が見えない」といった不透明感を指摘する声も寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「経済対策の波及効果により需要増が見込まれることから、先行きの期待感が見受けられる」ものの、「需要そのものについては低迷が続き、大幅売上増には時間がかかる」「流通経路の多様化により依然厳しい状況が続く」との見方も寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「連休中は昨今の『安近短』の外出傾向もあり買い物客は多かった」ものの、「客単価の下落から売上増には結びつかなかった」など消費の低迷が指摘されたほか、「目玉商品のまとめ買いの増加」や「必要なものを必要なだけしか買わない」など購買意欲の弱さを指摘する声が多い。また、先行きについて「夏のボーナス減少が予想されることから中元商戦への影響を懸念」する声が寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「連休中はかなり好況だったがその後はバツタリ」などゴールデンウィーク後の低迷を指摘する声が旅館、飲食店を中心に多く寄せられた。輸送からは「荷動きが鈍いため輸送力に過剰感があり、それに加えて運賃引き下げの要請もあり厳しい状況が続く」との声も寄せられた。

(参考)

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、東北、北陸信越、東海、近畿、中国の5ブロックで前月水準を上回り、北海道、関東、四国、九州の4ブロックで前月水準を下回った。

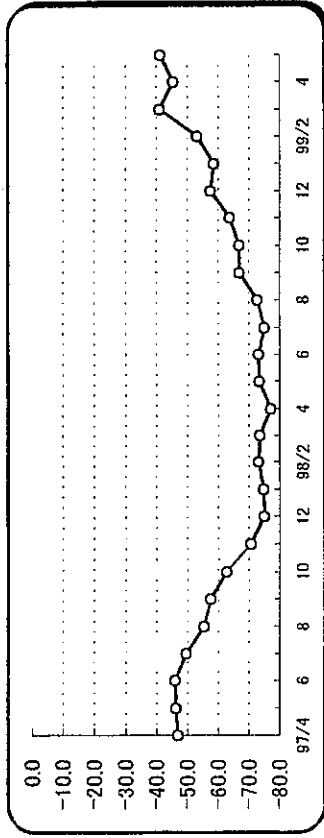
○ ブロック別の向こう3ヶ月の業況先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

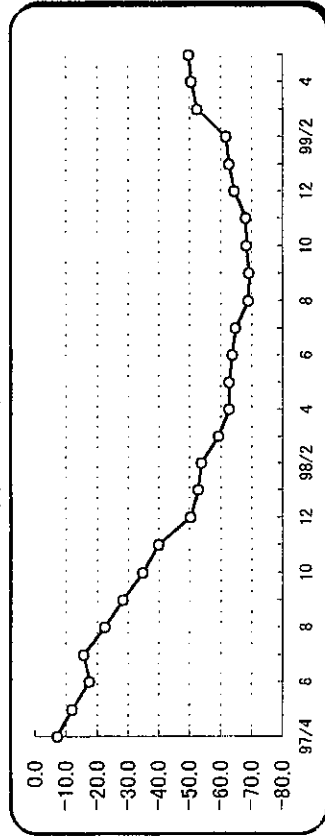
	10年 12月	11年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全 国	▲ 60.4	▲ 58.9	▲ 56.2	▲ 49.2	▲ 45.9	▲ 46.0	▲ 34.0 (▲ 49.1)
北 海 道	▲ 54.3	▲ 55.3	▲ 44.0	▲ 34.8	▲ 29.2	▲ 29.6	▲ 19.3 (▲ 34.8)
東 北	▲ 61.0	▲ 64.2	▲ 65.1	▲ 47.0	▲ 46.1	▲ 42.4	▲ 36.2 (▲ 50.6)
北陸信越	▲ 65.1	▲ 53.7	▲ 62.8	▲ 47.0	▲ 51.1	▲ 46.2	▲ 24.7 (▲ 51.2)
関 東	▲ 57.3	▲ 57.7	▲ 55.1	▲ 49.0	▲ 46.2	▲ 50.5	▲ 35.0 (▲ 42.7)
東 海	▲ 70.2	▲ 61.9	▲ 66.9	▲ 57.1	▲ 47.2	▲ 46.3	▲ 36.2 (▲ 53.8)
近 畿	▲ 62.5	▲ 69.7	▲ 61.9	▲ 54.6	▲ 53.6	▲ 51.8	▲ 39.6 (▲ 62.4)
中 国	▲ 64.7	▲ 56.8	▲ 52.8	▲ 58.2	▲ 52.9	▲ 48.9	▲ 37.9 (▲ 50.3)
四 国	▲ 57.4	▲ 62.3	▲ 53.1	▲ 51.3	▲ 47.5	▲ 51.3	▲ 38.1 (▲ 46.2)
九 州	▲ 51.5	▲ 47.7	▲ 44.5	▲ 40.3	▲ 34.2	▲ 35.1	▲ 32.5 (▲ 49.0)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

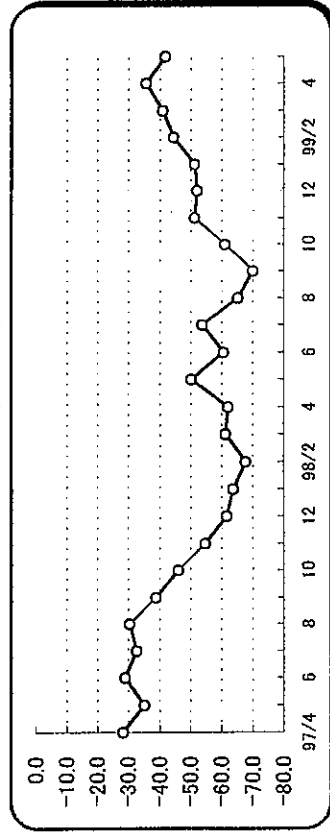
建設業



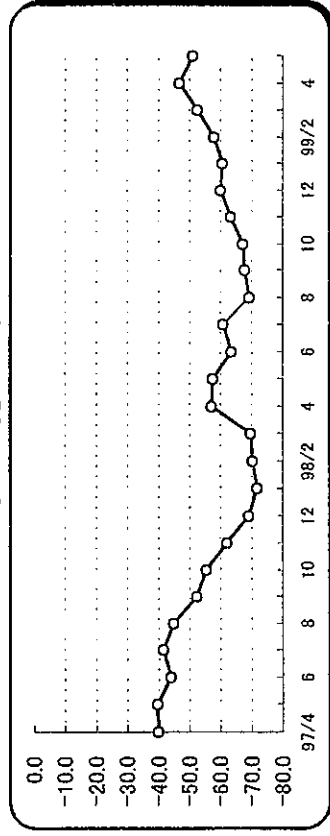
製造業



卸売業



小売業



サービス業

